

幼稚園健康領域と小学校体育科保健領域の接続に関する研究

—カリキュラムマップ作成の試み—

五代 孝輔¹ 玉腰 和典²

Research on the Connection between Kindergarten Health Area and Elementary School Physical Education Health Area

-Attempt to create a curriculum map-

GODAI Kosuke TAMAKOSHI Kazunori

Email:tatsuaki@edu.u-toyama.ac.jp

[概要]

小学校体育科保健領域は、小学校中学年から随時実施されるものとなっており、小学校低学年は健康教育に関する幼小接続不十分の期間と指摘されている。そこで、本研究では、幼児期健康領域と小学校体育科保健領域の接続の仕方とその課題について、小学校におけるカリキュラム編成の観点から解明することを目的とする。まず、幼稚園教育要領と学習指導要領を分析し、健康教育における幼小接続のカリキュラムマップを作成した。結果、作成されたカリキュラムマップでは、健康領域と保健領域の接続のあり方を明らかにすることができた。また、各内容において接続の中心となる教科・内容や、関連がみられる教科・内容について明らかにした。さらに、幼稚園教諭へのインタビュー調査から、カリキュラムマップをふまえた幼小接続の課題を考察した。

キーワード：幼小接続、健康教育、カリキュラムマップ

Keywords : Kindergarten and elementary school connections, health education, curriculum map

1. 研究の背景

現代の子どもの健康課題は、肥満・痩身、生活習慣の乱れ、視力低下、自律神経系や前頭葉機能の発達不全や不調、メディア時間の増加、メンタルヘルスの問題、自殺者数の増加、食物アレルギーの増加、性に関する問題など、様々なものが存在する(日本教育保健学会、2016;野井、2021)。学校における健康教育の重要性もより一層高まっていると言える。特に、幼児期は、生活習慣の基礎を形成する時期であり、心身の発達を促進する上で大きな影響があると考えられる。そのため、幼児期は、現代的な課題に対処する上でも重要な時期となる。近年においては、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響で、幼児期においても、スクリーンタイムの増加や屋内遊びの増加による身体活動量の低下、睡

眠の質の低下、間食の増加など、生活に様々な影響がでている(鈴木ら、2022)。そのため、幼児期を含む教育課程の観点から健康教育のあり方を検討し、充実させていくことが重要な課題となる。

近年、政策的にも幼小接続がより一層重視されるようになってきた。2007年に学校教育法が改正され、幼稚園教育が学校教育の基礎として位置づけられたことで、2008年に改訂された幼稚園教育要領では、小学校との連携が提示される。2010年には、文部科学省調査研究協力者会議による「幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続の在り方について(報告)」が提起され、2015年には、文部科学省・国立教育政策研究所から『スタートカリキュラム スタートブック』が発行される。2017年に改訂された保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領では、小学校との接続・連携がより一層強調されるようになっている。特に、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を

¹ 鹿児島大学大学院教育学研究科学校教育実践高度化専攻

² 富山大学学術研究部教育学系

提示しており、保育内容の5領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）と関連させた具体的な目標が提起されている。健康教育においても、2017年に発行された『小学校学習指導要領体育編』（文部科学省）にて、幼小接続の観点に記載された。さらに、2019年に文部科学省から発行された『（改訂）「生きる力」を育む小学校保健教育の手引』にて、「小学校教育においては、…（中略）…就学前教育…（中略）…との円滑な接続を図る必要がある」（p.4）という記載や、「小学生期は、幼児期に始まる基本的な生活習慣の確立を図りながら、さらに健康課題に対しては自律的に取り組むことができることを目指す時期とされる」（p.5）という記載がある。

以上のように、近年は、質の高い教育が実現できるように、幼児期と児童期の学びを連続させたカリキュラム編成が基本方針とされている。健康教育においても、幼児期の健康領域（以下、健康領域とする）と、児童期の小学校体育科保健領域（以下、保健領域とする）の接続を充実させていくことがもめられている。

しかし、健康領域と保健領域の接続においては、課題も散見される。

第1に、保健領域は、中学年以降に設定されており、低学年の段階では保健領域の授業を受講する機会がないことがあげられる。一方で、学習指導要領総則には「体育・健康に関する指導を、児童の発達の段階を考慮して、学校の教育活動全体を通じて適切に行う…（中略）…特に、学校における食育の推進…（中略）…安全に関する指導及び心身の健康の保持増進に関する指導については、体育科、家庭科及び特別活動の時間ほもとより、各教科、道徳科、外国語活動及び総合的な学習の時間などにおいてもそれぞれの特質に応じて適切に行うよう努めること」（文部科学省、2017b、p.18）と記載されている。そのため、体育科で保健の学習がなくとも、他の教育活動の中で健康教育が実施されることになっている。ただし、健康領域から接続する中心的な教科が位置づけられていないことから、幼小接続の見通しが把握しづらくなっていると考えられる。横田ら（2021）も、小学校低学年の期間を「接続不十分の期間」（横田ら、2021、p.264）と解釈し、この期間が幼小接続を困難にしている可能性があることを指摘している。

第2に、健康領域は、子どもの日常的な生活行動

をふくむ広範囲な内容をもっており、その全体像が把握しづらいことがあげられる。健康領域が想定する課題としては、運動遊び、主体的活動、生活リズム、衣服の着脱、食事、排泄、病気の予防、安全など多岐にわたる。さらに、上述のように、小学校低学年においては、生活科、学級活動、安全教育、学校給食などの学校教育活動全体を通して健康教育が実施されている。

このように、健康教育は、幼小接続の困難さがあることから、研究の蓄積が不十分となっている。そして、健康教育における幼小接続を実現するためには、幼児期の学びが低・中学年の段階でどのように接続され、その後、保健領域の学習にどのように接続していくのかを見通すことが必要となる。

しかし、先行研究（松本、2018；横田ら、2021）においては、いずれも目標レベルの検討が中心となっており、幼小接続のための具体的な教育活動を想定したカリキュラムを検討していない。健康教育の幼小接続を実現するためには、個々の内容項目の幼小接続のあり方を検討するだけでなく、包括的な観点からカリキュラムのあり方を検討することも課題になると考えられる。

2. 研究の目的

本研究では、幼児期健康領域と小学校体育科保健領域の接続の仕方とその課題について、小学校におけるカリキュラム編成の観点から解明することを目的とする。

3. 研究の対象と方法

（1）カリキュラムマップの作成

本研究では、第1に、健康領域と保健領域の接続を整理したカリキュラムマップを作成する。本研究で作成するカリキュラムマップとは、健康領域から保健領域へと接続する内容上の枠組みを図式化したものである。図式化する意義としては、複数ある要素を視覚的に把握しやすくすることで、複雑な接続のあり方を容易に理解することができる点にある。

カリキュラムマップの作成にあたって、分析対象は、『幼稚園教育要領』（文部科学省、2017a）、『小学校学習指導要領』（文部科学省、2017b）および『小学校学習指導要領解説』（文部科学省、2017c）とする。分析は、保健体育科教育学を専門とする研究者と20年以上の現場経験をもつ小学校教諭の2名で

協議しながら実施した。

本研究は、接続不十分の期間に着目するものであるため、カリキュラムマップの作成においては、上段には、小学校体育科保健領域の内容を設定する。小学校体育科保健領域は、「身近な生活における健康・安全に関する基礎的な内容を重視し、健康な生活を送る資質や能力の基礎を培う観点から」（文部科学省、2017c、p.24）、小学校3・4年生における「健康な生活」・「体の発育・発達」、5・6年生における「心の健康」・「けがの防止」・「病気の予防」を内容としている。また、本研究では、幼小接続のつながりを解明するものであるため、3・4年生の「体の発育・発達」と関連する5・6年生の「心の健康」、3・4年生の「健康な生活」と関連する5・6年生の「病気の予防」は、分析対象外としている。中段には、小学校の健康教育に関連する学校教育活動を位置づけている。下部には、幼稚園教育要領健康領域の内容を設定する。幼稚園教育要領（文部科学省、2017、pp.11-12）における健康領域の内容は、次の10項目である。

- (1) 先生や友達と触れ合い、安定感をもって行動する
- (2) いろいろな遊びの中で十分に体を動かす
- (3) 進んで戸外で遊ぶ
- (4) 様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む
- (5) 先生や友達と食べることを楽しみ、食べ物への興味や関心をもつ
- (6) 健康な生活のリズムを身に付ける
- (7) 身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分でする
- (8) 幼稚園における生活の仕方を知り自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動する
- (9) 自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う
- (10) 危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり安全に気をつけて行動する

上述した健康領域の内容と保健領域の内容の間に位置する教科や内容を明確にし、カリキュラムマップとして図式化する。なお、本研究は、接続不十分の期間に着目するため、高学年における保健領域以外の教科等は対象外とする。

(2) インタビュー調査

本研究では、第2に、幼稚園における健康領域の

実施事例を分析し、幼小接続の具体的な課題を解明する。対象は、国立大学附属 A 幼稚園である。まず、A 幼稚園が作成した資料である『教育課程』から、A 幼稚園における健康領域の内容を、幼稚園教育要領健康領域に記載されている10項目の内容を基準にして分析した。その上で、A 幼稚園に勤務する B 教諭へインタビュー調査を実施した。B 教諭は、A 幼稚園の勤続年数3年で、現在教務主任を担当している。半構造化インタビューを、2023年1月6日、同年3月10日の2回、各回1時間30分実施した。

インタビュー内容は、健康領域の各内容項目について、内容及び年長児を想定して、①どのような指導を心掛けているか（指導方法の重点）、②指導上の課題、③小学校に向けてどのように接続を図ればよいかの3点とした。

これら2つの研究をふまえ、最後に健康教育における幼小接続の成果と課題について、考察する。

4. 結果¹⁾

(1) 健康教育の幼小接続カリキュラムマップ

健康領域の内容を出発点、保健領域の内容を到達点として設定し、その間に位置づく健康教育を学校教育活動全体から抽出した。結果、小学校低・中学年において幼小接続に関連する諸活動は、生活科(1)～(9)、特別活動（学校行事）、特別活動（学級活動）、特別の教科道徳となった。以下に、保健領域のそれぞれの単元においてどのような接続可能性があるのかを検討する。

①小学校第3・4学年体育科保健領域「ア 健康な生活」

◆「ア 健康な生活（ア）」

〔保健領域の解説〕

「ア 健康な生活（ア）」は、「心や体の調子が良いなどの健康の状態は、主体の要因や周囲の環境の要因が関わっていること」である。「解説」においては、「健康の状態には、気持ちが意欲的であること、元気なこと、具合の悪いところがないことなどの心や体の調子がよい状態があることを理解できるようにする。また、健康の状態には、1日の生活の仕方などの主体の要因や身の回りの環境の要因が関わっていることを理解できるようにする。その際、心や体が健康であることは、人と関わりながら明るく充実した毎日の生活を送れることにつながり、健康が

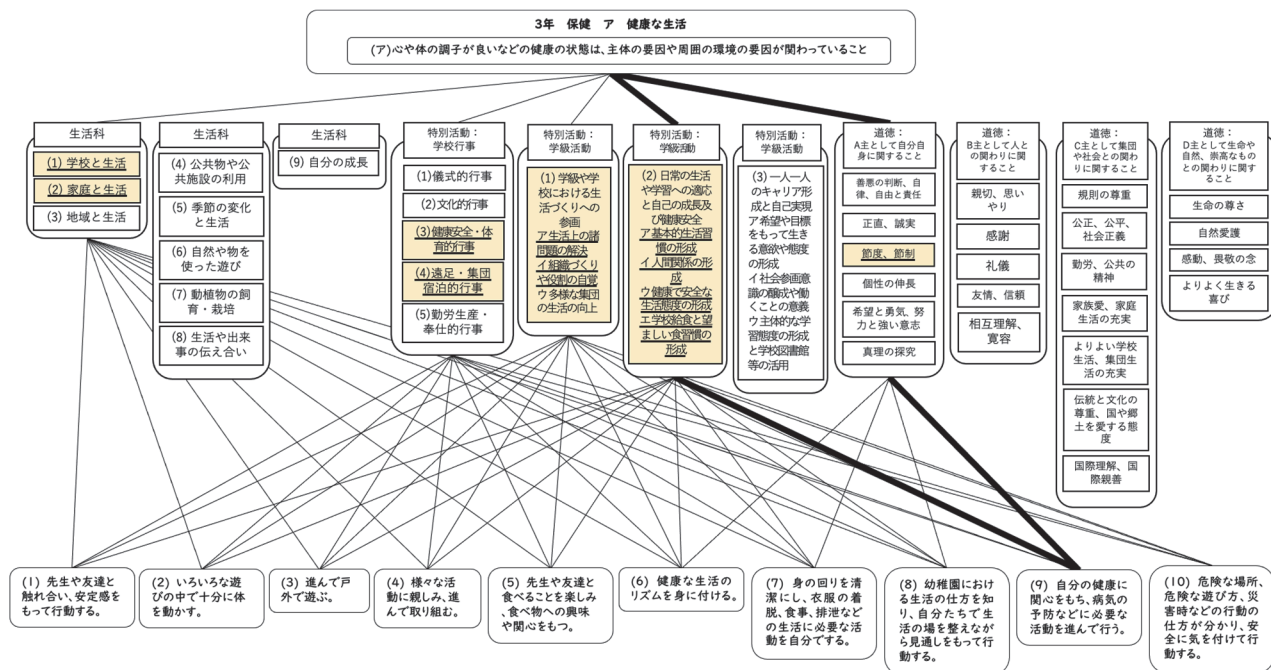


図1. 小学校3年生体育科保健領域「ア 健康な生活（ア）」の幼小接続カリキュラムマップ

かけがえのないものであることにも触れるようにする」(p.107)と提示されている。したがって、ここでは、健康な状態にもとづく「健康概念の形成」と「健康の2要因」が分析の観点となる。なお、後者における周囲の環境の要因とは、お風呂に入る、適切な照明である、掃除をしているといった環境のことを意味している。

【関連性が高い内容とその解説】

図1は、上述の内容をふまえて作成した「ア 健康な生活（ア）」のカリキュラムマップである。保健領域内容と保健領域「ア 健康な生活（ア）」を接続する小学校低・中学年の教育活動は、関連性が高いもので、「特別活動：学級活動(2)アウ」、「道徳A 節度、節制」があげられ、関連性をもつもので、上記に加え、「生活科(1)(2)」、「特別活動：学校行事(3)(4)」、「特別活動：学級活動(1)アイ」、「特別活動：学級活動(2)イエ」があげられた。

高い関連性が解釈できる理由としては、次のことがあげられる。健康領域内容(9)は、「幼児なりに自分の体を大切にしなければならないことに気付かせ、手洗い、歯みがき、うがいなど病気にかからないために必要な活動を自分からしようとする態度を育てる」(文部科学省、2018b、p.145)ことから、幼児なりの健康の捉え方についても指導することや自分たちで生活の場を整えることを指導すると考えられる。「特別活動：学級活動(2)ア」では、

「身の回りの整理や挨拶などの基本的な生活習慣を身に付け、節度ある生活にすること」(文部科学省、2017d、p.53)、「特別活動：学級活動(2)ウ」では、「現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること」(文部科学省、2017d、p.55)が内容とされており、基本的な生活習慣や生活態度を形成する上で、健康の捉え方を指導すると考えられる。「道徳A 節度、節制」は「進んで自分の生活を見直し、自分の置かれた状況について思慮深く考えながら自らを節制し、程よい生活をしていくことである。自己の確立にとって、自分を客観的に見つめ、自分の現状を内省することは不可欠な要素である」(文部科学省、2017e、p.32)とされており、健康行動が遂行できない原因を考える過程で健康要因を指導すると考えられる。

【健康領域内容との関連性の解説】

「ア 健康な生活（ア）」に接続する低・中学年の教育活動と関連性をもつ健康領域内容は、(1)～(10)であった。「健康な生活（ア）」は、「健康」概念を理解する際に、健康的なからだや心の状態と関連づける。そのため、すべての内容との関連があると考えられる。

健康領域内容と「ア 健康な生活（ア）」の両面に関連性をもつ低・中学年の教育活動としては、次のものがある。「生活科(1)」は「学校生活に関わる活

動を通して、学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考えることができ、学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かり、楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしたりしようとする」(文部科学省、2017f、p.29)が内容とされており、学校内での生活の仕方や生活を支える人の存在を把握したり、運動・休養環境などの健康な生活に必要な場を把握したりする指導が考えられ、健康領域内容(1)～(10)と関連をもつ。「生活科(2)」は「家庭生活に関わる活動を通して、家庭における家族のことや自分でできることなどについて考えることができ、家庭での生活は互いに支え合っていることが分かり、自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活したりしようとする」(文部科学省、2017f、p.31)が内容とされ、家庭で健康に気をつけて健康な生活をする指導が考えられ、健康領域内容(1)～(10)と関連をもつ。「特別活動：学校行事(3)」では「心身の健全な発達や健康の保持増進、事件や事故、災害等から身を守る安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上などに資するようにすること」(文部科学省、2017d、p.122)、「特別活動：学校行事(4)」では、「自然の中での集団宿泊活動などの平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、よりよい人間関係を築くなどの集団生活の在り方や公衆道徳などについての体験を積むことができるようにすること」(文部科学省、2017d、p.124)が内容とされ、行事として健康・安全な生活の仕方についての指導や集団的な関係づくりをすることが考えられ、健康領域内容(1)～(10)と関連をもつ。「学級活動(1)ア」では、「学級や学校における生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図り、実践すること」(文部科学省、2017d、p.47)、「学級活動(1)イ」では「学級生活の充実や向上のため、児童が主体的に組織をつくり、役割を自覚しながら仕事を分担して、協力し合い実践すること」(文部科学省、2017d、p.50)が内容とされており、健康・安全に関連する学級内の生活の仕方についての話し合いや係活動の指導が考えられ、健康領域内容(1)～(10)と関連をもつ。上述した「特別活動：学級活動(2)アウ」に加え、「特別活動：学級活動(2)イ」

では「学級や学校の生活において互いのよさを見付け、違いを尊重し合い、仲よくしたり信頼し合ったりして生活すること」(文部科学省、2017d、p.54)、「特別活動：学級活動(2)エ」では「給食の時間を中心としながら、健康によい食事のとり方など、望ましい食習慣の形成を図るとともに、食事を通して人間関係をよりよくすること」(文部科学省、2017d、p.57)が内容とされており、健康的な人間関係や食の指導が考えられ、(1)～(10)と関連をもつ。「道徳 A 節度、節制」では「基本的な生活習慣に関わること」(文部科学省、2017e、p.32)が内容とされており、健康・安全についての内容の指導が考えられ、健康領域内容(6)(7)(8)(9)と関連をもつ。

◆「ア 健康な生活(イ)」

〔保健領域の解説〕

「ア 健康な生活(イ)」は、「毎日を健康に過ごすには、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続けること、また、体の清潔を保つことなどが必要であること」である。「解説」においては、「健康の保持増進には、1日の生活の仕方が深く関わっており、1日の生活のリズムに合わせて、運動、食事、休養及び睡眠をとることが必要であることを理解できるようにする。その際、日常生活に運動を取り入れることの大切さについても触れるようにする。また、手や足などの清潔、ハンカチや衣服などの清潔を保つことが必要であることを理解できるようにする」(p.107)と提示されている。

〔関連性が高い内容とその解説〕

図2は、上述した内容をふまえて作成した「ア 健康な生活(イ)」のカリキュラムマップである。健康領域内容と保健領域「ア 健康な生活(イ)」を接続する小学校低・中学年の教育活動は、関連性が高いもので、「特別活動：学校行事(3)(4)」、「特別活動：学級活動(2)アウエ」があげられ、関連性をもつもので、上記に加え、「生活科(1)(2)」、「特別活動：学級活動(1)イ」、「道徳 A 節度、節制」があげられた。

高い関連性が解釈できる理由としては、次のことがあげられる。健康領域内容(5)は、「食べることの楽しさや喜びに気づき、幼児らしい充実した生活をつくり出す」(文部科学省、2018b、p.141)、(6)は「健康な生活のリズムを身に付け、自立の基礎が培われていく」(文部科学省、2018b、p.142)、(7)は清潔に関係する行動を「毎日繰り返し行うことによって

容(2)～(9)と関連をもつ。「道徳 A 節度、節制」では、健康な生活のための指導があり、健康領域内容(6)～(9)と関連をもつ。

◆「ア 健康な生活 (ウ)」

【保健領域の解説】

「ア 健康な生活 (ウ)」は、「毎日を健康に過ごすには、明るさの調節、喚気などの生活環境を整えることなどが必要であること」である。「解説」においては、「健康の保持増進には、生活環境が関わっており、部屋の明るさの調節や喚気などの生活環境を整えることが必要であることを理解できるようにする」(p.107)と提示されている。

【関連性が高い内容とその解説】

図3は、上述した内容をふまえて作成した「ア 健康な生活 (ウ)」のカリキュラムマップである。健康領域内容と保健領域「ア 健康な生活 (ウ)」を接続する小学校低・中学年の教育活動は、関連性が高いもので、「特別活動：学級活動 (2) アウ」があげられ、関連性をもつもので、上記に加え、「生活科(1)(2)」、「特別活動：学級活動(1)アイ」、「道徳 A 節度、節制」があげられた。

高い関連性が解釈できる理由としては、次のことがあげられる。健康領域内容(7)は身の回りを清潔にすることが指導され、(8)は自分たちで生活の場を整えることが指導されるため、「ア 健康な生活

(ウ)」と関連性が高いと考えられる。「学級活動 (2) アウ」では、基本的な生活習慣や健康で安全な生活態度を指導する際に身の回りの環境を整えることをあつかうため、「ア 健康な生活 (ウ)」と関連性が高いと考えられる。

【健康領域内容との関連性の解説】

「ア 健康な生活 (ウ)」に接続する低・中学年の教育活動と関連性をもつ健康領域内容は、(7)(8)(9)であった。健康領域内容(7)(8)は、身の回りの生活環境を調整する指導が考えられる。健康領域内容(9)は、自分の健康に関心をもたせ、生活環境を管理・調整する指導が考えられる。

健康領域内容と「ア 健康な生活 (ウ)」の両面に関連性をもつ低・中学年の教育活動としては、次のものがある。「生活科(1)」では、学校内での施設環境やその整え方が指導されると考えられ、健康領域内容(7)(8)と関連をもつ。「生活科(2)」では、家庭で環境面でも健康に気をつけて生活することが指導されると考えられ、健康領域内容(7)(8)と関連をもつ。「学級活動(1)アイ」では、学級内の生活環境の問題を解決する話し合いや、清掃係・美化係などの係活動に関連した生活環境の指導があり、健康領域内容(7)(8)(9)と関連をもつ。「学級活動(2)アウ」では、学校生活における身の回りの健康について指導されると考えられ、健康領域目標(7)(8)(9)と関連をもつ。「道徳 A 節度、節制」では、健康のために周囲の環

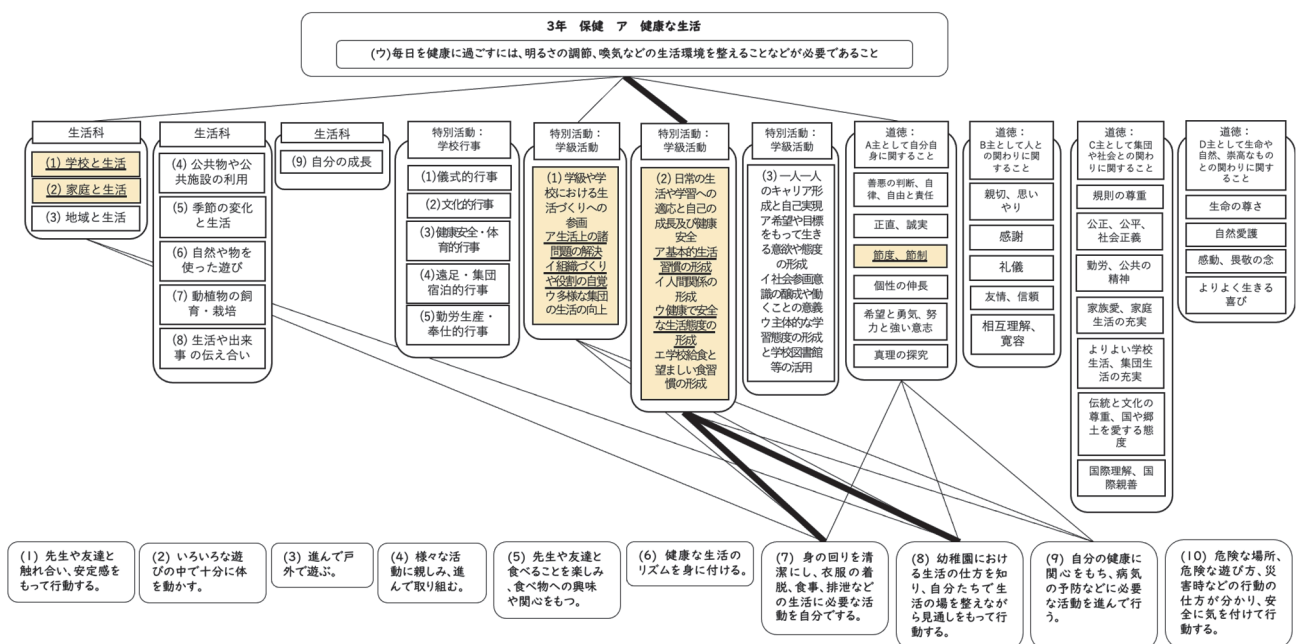


図3. 小学校3年生体育科保健領域「ア 健康な生活 (ウ)」の幼小接続カリキュラムマップ

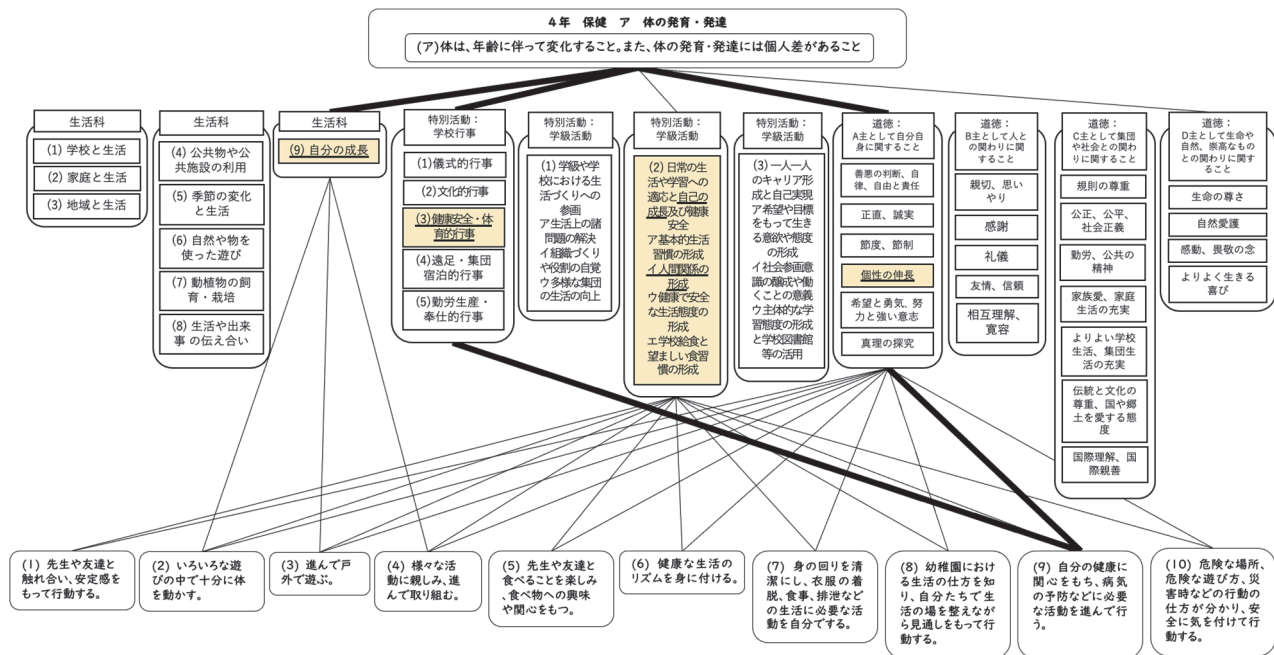


図4. 小学校4年生体育科保健領域「ア 体の発育・発達(ア)」の幼小接続カリキュラムマップ

境を考える指導があり、健康領域内容(7)(8)(9)と関連をもつ。

②小学校3・4学年体育科保健領域「ア 体の発育・発達」

◆「ア 体の発育・発達 (ア)」

〔保健領域の解説〕

「ア 体の発育・発達 (ア)」は、「体は、年齢に伴って変化すること。また、体の発育・発達には個人差があること」である。「解説」においては、「体の発育・発達については、身長、体重などを適宜取り上げ、これらは年齢に伴って変化することを理解できるようにするとともに、個人差があることを理解できるようにする」(p.109)と提示されている。

〔関連性が高い内容とその解説〕

図4は、上述した内容をふまえて作成した「ア 体の発育・発達 (ア)」のカリキュラムマップである。健康領域内容と保健領域「ア 体の発育・発達 (ア)」を接続する小学校低・中学年の教育活動は、関連性が高いもので、「生活科(9)」、「特別活動：学校行事(3)」、があげられ、関連性をもつもので、上記に加え「特別活動：学級活動(2)」、「道徳 A 個性の伸長」があげられた。

高い関連性が解釈できる理由としては、次のことがあげられる。健康領域内容(9)は「健康診断や身体測定などの機会を通して、自分の成長を喜びなが

ら自分の体に関心をもつように働き掛けること」(文部科学省、2018b、p.145)が内容とされ、健康診断の結果から自身の体の発育・発達に関心をもたせる指導が考えられる。「学校行事(3)」では、健康安全において健康診断があつかわれると考えられる。「生活科(9)」では、「自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分のことや支えてくれた人々について考えることができ、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かるとともに、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもち、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活しようとする」(文部科学省、2017e、p.49)が内容とされ、自己の成長をあつかう際に、年齢にともなう体の変化を指導すると考えられる。

〔健康領域内容との関連性の解説〕

「ア 体の発育・発達 (ア)」に接続する低・中学年の教育活動と関連性をもつ健康領域内容は、(1)～(10)であった。健康領域内容(2)(3)(4)は、運動遊びをふくむ多様な遊びを経験させる中で、体の部位や特徴を理解させる指導をされると考えられる。また、幼児期に育てたい自立心として、「5歳児の後半には、友達から認められることで更に自信をもつようになることを踏まえ、一人一人の幼児のよさが友達に伝わるように認めたり、学級全体の中で認め合える機会をつくったりするなどの工夫が重要になる」

(文部科学省、2018b、p.51)とされている。健康領域においても、「一人一人の幼児が教師や他の幼児などとの温かい触れ合いの中で楽しい生活を展開することや自己を十分に発揮して伸び伸びと行動することを通して充実感や満足感を味わうようにすることが大切である」(文部科学省、2018b、p.136)と記載されており、健康領域内容(1)～(10)でも、それぞれの内容に関連して子どもの個性(個人差)を尊重したり、伸長したりする指導をすると考えられる。

健康領域内容と「ア 体の発育・発達(ア)」の両面に関連性をもつ低・中学年の教育活動としては、次のものがある。「生活科(9)」は、年齢にともなう体の変化を指導すると考えられ、健康領域内容(2)(3)(4)と関連をもつ。「学校行事(3)」では、健康診断で体の成長についての指導が考えられ、健康領域目標(9)と関連をもつ。「学級活動」では、アからエまでの内容について自己の成長をふりかえりさせたり、イ人間関係の形成で、お互いのちがいを尊重させたりする指導が考えられ、健康領域内容(1)～(10)と関連をもつ。「道徳 A 個性の伸長」では、「自分の特徴に気付くこと」(文部科学省、2017f、p.34)が内容とされ、自己の成長や個性についての指導が考えられ、健康領域目標(1)～(10)と関連をもつ。

◆「ア 体の発育・発達(イ)」

〔保健領域の解説〕

「ア 体の発育・発達(イ)」は、「体は思春期になると次第に大人の体に近づき、体つきが変わったり、初経、精通などが起こったりすること。また、異性への関心が芽生えること」である。「解説」においては、「ア 思春期には、体つきに変化が起こり、人によって違いがあるものの、男子はがっしりした体つきに、女子は丸みのある体つきになるなど、男女の特徴が現れることを理解できるようにする。イ 思春期には、初経、精通、変声、発毛が起こり、また、異性への関心も芽生えることについて理解できるようにする。さらに、これらは、個人差があるものの、大人の体に近づく現象であることを理解できるようにする。なお、指導に当たっては、発達の段階を踏まえること、学校全体で共通理解を図ること、保護者の理解を得ることなどに配慮することが大切である」(p.109)と提示されている。

〔関連性が高い内容とその解説〕

図5は、上述した内容をふまえて作成した「ア 体の発育・発達(イ)」のカリキュラムマップである。健康領域内容には、「ア 体の発育・発達(イ)」と高い関連性をもつものはあげられなかった。保健領域「ア 体の発育・発達(イ)」に接続する小学校低・中学年の教育活動は、関連性が高いもので、「生活科(9)」、「特別活動：学校行事(3)」、があげられ、

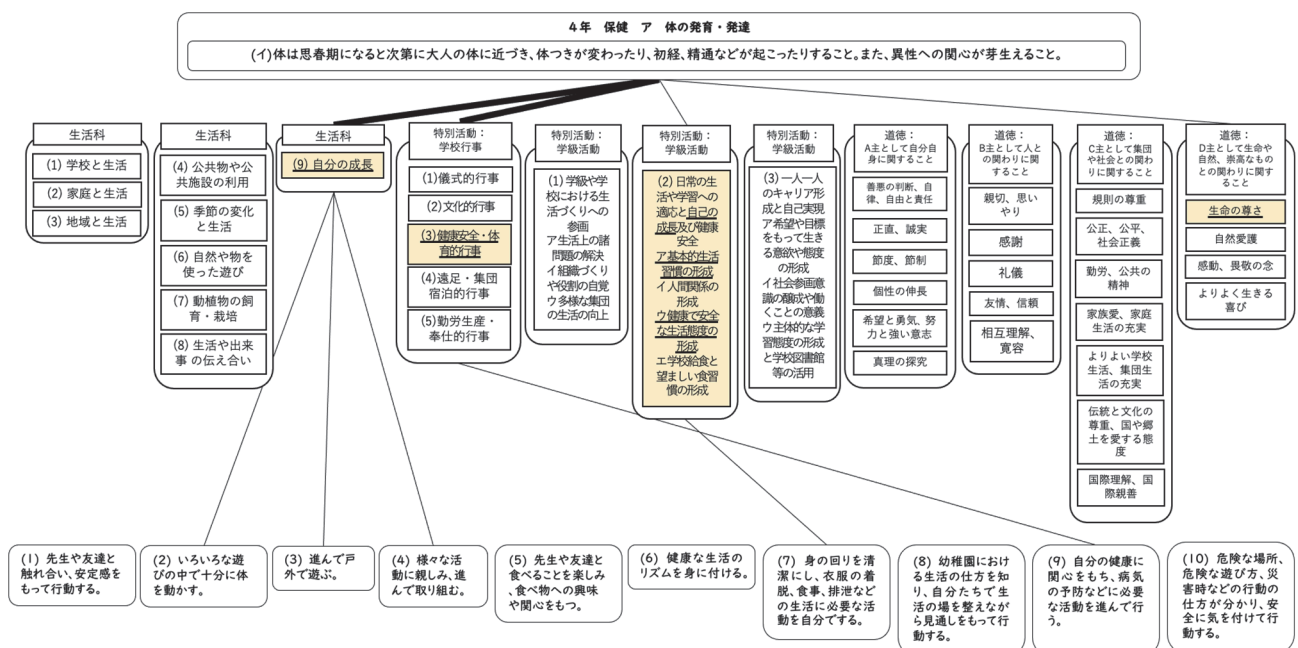


図5. 小学校4年生体育科保健領域「ア 体の発育・発達(イ)」の幼小接続カリキュラムマップ

関連性をもつもので、上記に加え「特別活動：学級活動(2)アウ」、「道徳D生命の尊さ」があげられた。

高い関連性が解釈できる理由としては、次のことがあげられる。「生活科(9)」では、自分の成長を考える過程で、体が大人へ発育・発達することを指導すると考えられる。「特別活動：学校行事(3)」では、健康診断との関連で大人への発育・発達を指導することが考えられる。

〔健康領域内容との関連性の解説〕

「ア 体の発育・発達(イ)」に接続する低・中学年の教育活動と関連性をもつ健康領域内容は、(2)(3)(4)(7)(9)であった。健康領域内容(2)(3)(4)は、運動遊びをふくむ多様な遊びを経験させる過程で、体の部位の名称や特徴について理解することを指導すると考えられる。健康領域内容(7)は、排泄(トイレ)指導の際に、性器の名称を学習すると考えられる。健康領域内容(9)は、健康診断の結果等をふまえて体の成長をとらえさせる指導が考えられる。

健康領域内容と「ア 体の発育・発達(イ)」の両面に関連性をもつ低・中学年の教育活動としては、次のものがある。「生活科(9)」では、体の成長についての指導が考えられ、健康領域内容(2)(3)(4)と関連をもつ。「学校行事(3)」では、健康観察で体の成長を指導することが考えられ、健康領域内容(9)と関連をもつ。「特別活動：学級活動(2)アウ」では、衣服の着脱や排泄(トイレ)などに関連して、性器

の名称や清潔の保持などを指導することが考えられ、健康領域内容(7)と関連をもつ。

◆「ア 体の発育・発達(ウ)」

〔保健領域の解説〕

「ア 体の発育・発達(ウ)」は、「体をよりよく発育・発達させるには、適切な運動、食事、休養及び睡眠が必要であること」である。「解説」においては、「体をよりよく発育・発達させるための生活の仕方には、体の発育・発達によい運動、多くの種類の食品をとることができるようなバランスのとれた食事、適切な休養及び睡眠などが必要であることを理解できるようにする。その際、運動については、生涯を通じて骨や筋肉などを丈夫にする効果が期待されること、食事については、特に、体をつくる基になるたん白質、不足がちなカルシウム、不可欠なビタミンなどを摂取する必要があることについても触れるようにする」(p.109)と提示されている。

〔関連性が高い内容とその解説〕

図6は、上述した内容をふまえて作成した「ア 体の発育・発達(ウ)」のカリキュラムマップである。健康領域内容と保健領域「ア 体の発育・発達(ウ)」を接続する小学校低・中学年の教育活動は、関連性が高いもので、「生活科(9)」、「特別活動：学級活動(2)アウエ」があげられ、関連性をもつもので、上記に加え「生活科(1)(2)」、「特別活動：学校行事(3)(4)」

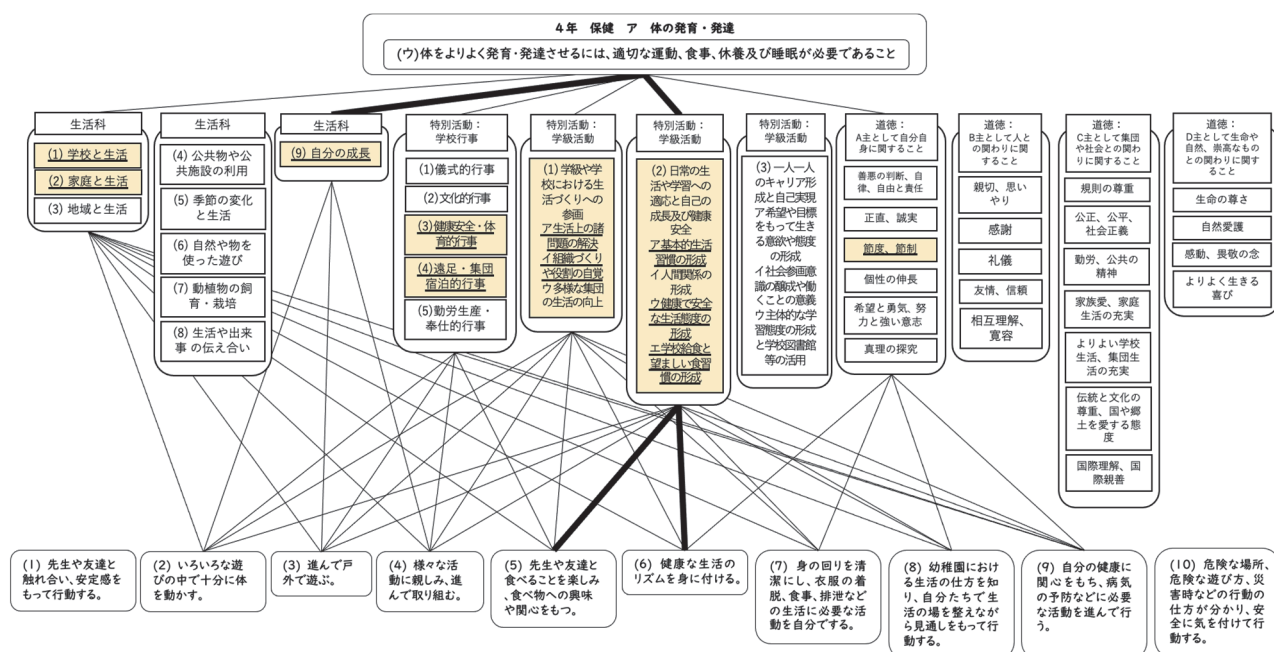


図6. 小学校4年生体育科保健領域「ア 体の発育・発達(ウ)」の幼小接続カリキュラムマップ

「特別活動：学級活動 (1) アイ」、「道徳 A 節度・節制」があげられた。

高い関連性が解釈できる理由としては、次のことがあげられる。健康領域内容 (5)(6) は、基本的生活習慣の形成をめざすもので、その目的の1つとして、体をよりよく発育・発達させることが指導されると考えられる。「学級活動 (2) アウ」では、「体をよりよく発育・発達させる」ために、基本的生活習慣や健康で安全な生活態度を指導することが考えられる。

「ア 体の発育・発達 (ウ)」に接続する低・中学年の教育活動と関連性をもつ健康領域内容は、(2)(3)(4)(5)(6)(7)(8)(9) であった。基本的生活習慣について、健康領域内容 (2)(3)(4) は、適切な運動の必要性和関連して指導すると考えられる。健康領域 (5)(7) は、適切な食事の必要性和関連して指導すると考えられる。健康領域内容 (6)(8)(9) は、健康な生活リズムと健康への関心と関連して指導すると考えられる。

健康領域内容と「ア 体の発育・発達 (ウ)」の両面に関連性をもつ低・中学年の教育活動としては、次のものがある。「生活科 (1)」では、学校における遊び場や多様な活動の場を把握して見通しをもつ指導が考えられ、健康領域内容 (2)～(9) と関連をもつ。「生活科 (2)」では、家庭で健康に気をつけて生活をする指導が考えられ、健康領域内容 (2)～(9) と関連をもつ。「生活科 (9)」では、自分の成長を理解する際に「体の発育・発達」について指導すると考えられ、健康領域内容 (2)～(4) と関連をもつ。「学校行事 (3)(4)」では、健康診断で体の成長に関わる指導や遠足等の行事で健康な生活の仕方の指導が考えられ、健康領域目標 (2)～(5)(9) と関連をもつ。「学級活動 (1) アイ」では、学級活動や係活動等を通して健康に過ごすための指導が考えられ、健康領域目標 (2)～(9) と関連をもつ。「学級活動 (2) アウエ」は、基本的生活習慣を身につける指導や食の指導が考えられ、健康領域目標 (2)～(9) と関連をもつ。「道徳 A 節度・節制」では、基本的生活習慣に関連する指導が考えられ、健康領域目標 (6)～(9) と関連をもつ。

③小学校 5・6 年生体育科保健領域「ア けがの防止」

◆「ア けがの防止 (ア)」

【保健領域の解説】

「ア けがの防止 (ア)」は、「交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがの防止につ

いて」である。「解説」においては、交通事故や水の事故、学校生活での事故や犯罪被害の発生やその原因となるけがなどは、人の行動や環境が関係して発生することを理解する (ア)、交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがを防止する行動を理解する (イ) 校舎や遊具など施設・設備を安全に整えるなど、安全な環境をつくることが必要であることを理解する (ウ) といった提示がみられる (文部科学省、2017、p.154)。

【関連性が高い内容とその解説】

図 7 は、上述した内容をふまえて作成した「ア けがの防止 (ア)」のカリキュラムマップである。健康領域内容と保健領域「ア けがの防止 (ア)」を接続する小学校低・中学年の教育活動は、関連性が高いもので、「生活科 (1)」、「特別活動：学校行事 (3)(4)」、「特別活動：学級活動 (2) アウ」、「道徳 A 節度・節制」があげられ、関連性をもつもので、上記に加え「生活科 (6)」、「特別活動：学級活動 (1) アイ」、「道徳 C 規則の尊重」、「道徳 D 生命の尊さ」があげられた。

高い関連性が解釈できる理由としては、次のことがあげられる。健康領域内容 (10) は、「幼稚園生活の中で、危険な遊び方や場所、遊具などについてその場で具体的に知らせたり、気付かせたりし、状況に応じて安全な行動がとれるようにすることが重要である。さらに、交通安全の指導や避難訓練などについては、長期的な見通しをもち、計画的に指導すると同時に、日常的な指導を積み重ねることによって、安全な交通の習慣や災害などの際の行動の仕方などについて理解させていくことも重要である」(文部科学省、2018b、p.51) とされており、日常生活全般の安全に関する行動を指導すると考えられる。「生活科 (1)」は、学校における危険な場所や保健室についての指導や学校までの通学路や通学路で安全を守る人についての指導が考えられる。「学校行事 (3)(4)」では、交通安全教室を実施したり、遠足時の安全指導を実施したりすることが考えられる。「学級活動 (2) アウ」では、安全をふくむ基本的生活習慣や健康で安全な生活態度を指導することが考えられる。「道徳 A 節度・節制」では、健康や安全に気をつけて節度ある生活を考える単元が考えられる。

【健康領域内容との関連性の解説】

「ア けがの防止 (ア)」に接続する低・中学年の教育活動と関連性をもつ健康領域内容は、(2)(3)(4)

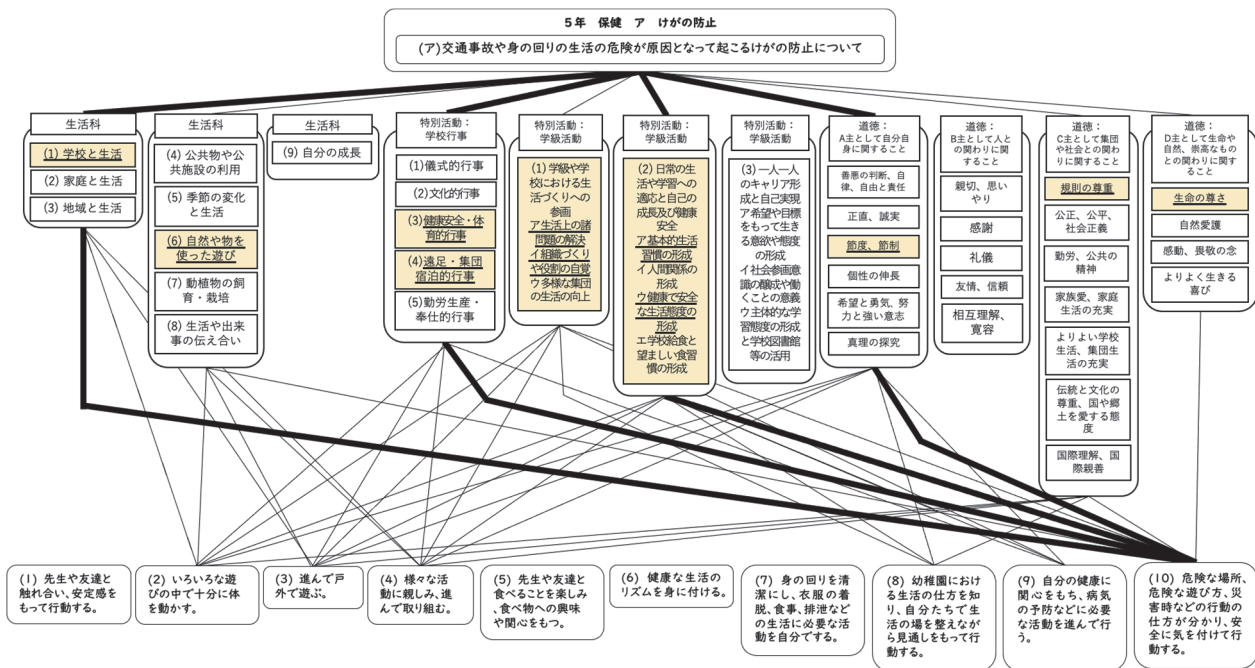


図7. 小学校5年生体育科保健領域「ア けがの防止(ア)」の幼小接続カリキュラムマップ

(8)(9)(10)であった。健康領域内容(2)(3)(4)は、多様な遊びを経験させる際に安全面の指導をしたり、安全のためのルールの大切さを指導したりすると考えられる。健康領域内容(8)は、園の生活や場づくりにおいて安全面の指導をすると考えられる。健康領域内容(9)は、怪我ではなく病気の予防ではあるが、予防についてあつかうことや健康に関心をもつことが内容とされることから関連する指導がされると考えられる。

健康領域内容と「ア けがの防止(ア)」の両面に関連性をもつ低・中学年の教育活動としては、次のものがある。上述した「生活科(1)」に加え「生活科(6)」では、「身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする」(文部科学省、2017e, p.41)が内容とされており、自然や物を使用した遊びにおける安全面の指導が考えられ、健康領域内容(2)(3)(4)(10)と関連をもつ。「学校行事(3)(4)」では、運動や健康に関連する行事を通して、安全面の指導がされると考えられ、健康領域内容(2)(3)(4)(9)(10)と関連をもつ。「学級活動(1)アイ」では、安全に関わる話し合いや運動・保健関係の係活動の指導があると考えられ、健康領域内容(2)(3)(4)(8)(9)(10)と関連をもつ。「学級活動(2)アウ」では、基本的生

活習慣や生活態度において安全面の指導がされると考えられ、健康領域内容(2)(3)(4)(8)(9)(10)と関連をもつ。「道徳A 節度、節制」では、健康や安全に関連する指導がされると考えられ、健康領域内容(2)(3)(4)(8)(9)(10)と関連をもつ。「道徳C 規則の尊重」では、「児童が成長することは、同時に所属する集団や社会を構成する一員として集団や社会の様々な規範を身に付けていくことでもある。そのためにも、約束や法、きまりを進んで守ることができるようにすることが必要である」(文部科学省、2017f, p.50)とされており、規則(ルール)の安全教育が健康領域内容(2)(3)(4)(8)(10)と関連をもつ。「道徳D 生命の尊さ」の命の大切さの安全教育が健康領域内容(10)と関連をもつ。

◆「ア けがの防止(イ)」

〔保健領域の解説〕

「ア けがの防止(イ)」は、「けがなどの簡単な手当ては、速やかに行う必要があること」である。「解説」においては、「ア けがをしたときには、けがの悪化を防ぐ対処として、けがの種類や程度などの状況をできるだけ速やかに把握して処置すること、近くの人に知らせることが大切であることを理解できるようにする。また、自らできる簡単な手当てには、傷口を清潔にする、圧迫して出血を止める、患部を冷やすなどの方法があることを理解できるよう

にする。イ すり傷、鼻出血、やけどや打撲などを適宜取り上げ、実習を通して、傷口を清潔にする、圧迫して出血を止める、患部を冷やすなどの自らできる簡単な手当ができるようにする」(p.154)と提示されている。

【関連性が高い内容とその解説】

図8は、上述した内容をふまえて作成した「ア けがの防止 (イ)」のカリキュラムマップである。健康領域内容と保健領域「ア けがの防止 (イ)」を接続する小学校低・中学年の教育活動は、関連性が高いもので、「生活科 (1)」、「特別活動：学校行事 (3) (4)」、「特別活動：学級活動 (1) イ」、「特別活動：学級活動 (2) アウ」があげられ、関連性をもつもので、上記に加え「生活科 (4)(6)」があげられた。

高い関連性が解釈できる理由としては、次のことがあげられる。健康領域内容 (10) は、怪我の防止や安全に関係する内容であり、けがをした際の手当でもふくまれると考えられる。「生活科 (1)」では、学校探検などで怪我をした際の保健室の利用についての指導が考えられる。「学校行事 (3)(4)」では、交通安全教室を実施したり、遠足時の安全指導を実施したりする際に、怪我をした場合の対処方法についてあつかうことが考えられる。「学級活動 (1) イ」では、学級内の係活動において保健係の指導で怪我をした場合の対処方法についてあつかうことが考えられる。「学級活動 (2) アウ」では、基本的生活習慣や

健康で安全な生活態度として安全についての指導をする際に、怪我をした場合の対処方法についてあつかうことなどが考えられる。

「ア けがの防止 (イ)」に接続する低・中学年の教育活動と関連性をもつ健康領域内容は、(2)(3)(4)(8) (9)(10)であった。健康領域内容 (2)(3)(4) は、多様な遊びを経験させる際に怪我の対処方法の指導をすると考えられる。健康領域内容 (8) は、園生活において怪我の対処方法の指導をすると考えられる。健康領域内容 (9) は、病気を予防するために怪我の対処方法の指導をすると考えられる。

【健康領域内容との関連性の解説】

健康領域内容と「ア けがの防止 (イ)」の両面に関連性をもつ低・中学年の教育活動としては、次のものがある。「生活科 (1)」では、多様な活動において怪我をした際の保健室利用についての指導が考えられ、健康領域内容 (2)(3)(4)(10) と関連をもつ。上述した「生活科 (6)」に加え「生活科 (4)」では、「公共物や公共施設を利用する活動を通して、それらのよさを感じたり働きを捉えたりすることができ、身の回りにはみんなで使うものがあることやそれらを支えている人々がいることなどが分かるとともに、それらを大切に、安全に気を付けて正しく利用しようとする」(文部科学省、2017e, p.36)とされており、病院の利用や怪我をした場合の手当てについての指導が考えられ、健康領域内容 (2)(3)(4)(9)(10)

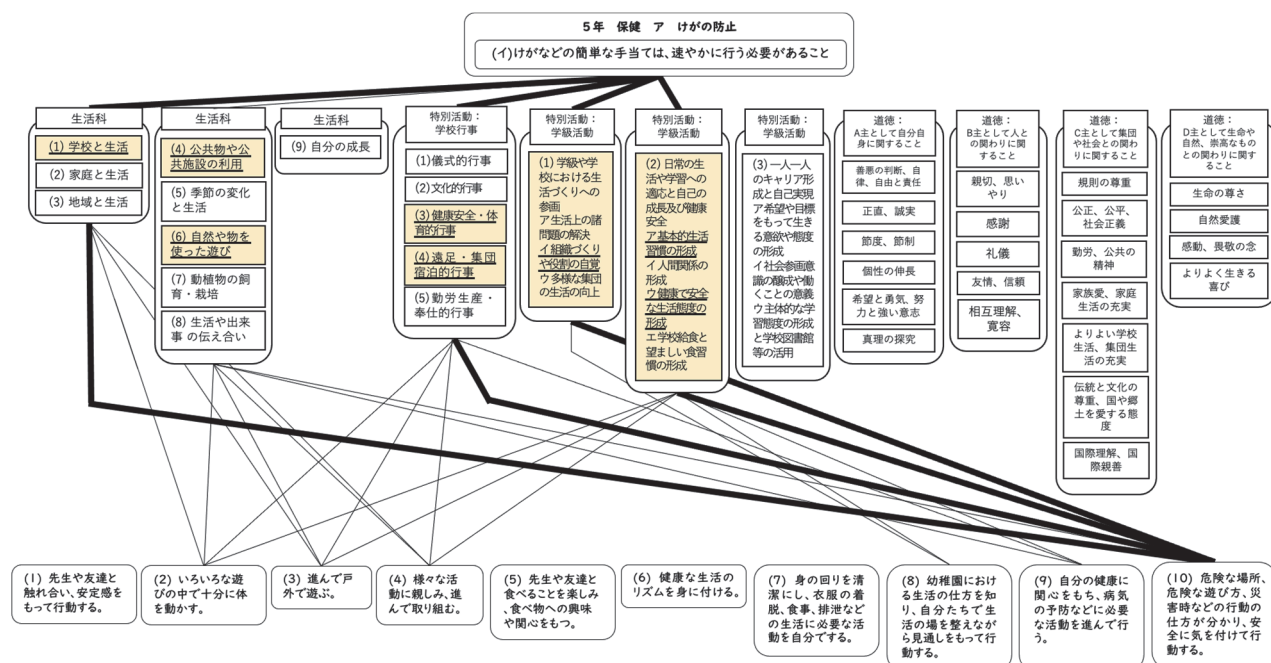


図8. 小学校5年生体育科保健領域「ア けがの防止(イ)」の幼小接続カリキュラムマップ

と関連をもつ。「学校行事(3)(4)」では、交通事故にあった場合の対処や遠足時の怪我の対処について指導することが考えられ、健康領域内容(2)(3)(4)(9)(10)と関連をもつ。「学級活動(1)イ」は、自分たちで生活を整える上で保健係の役割が指導され、健康領域内容(8)(10)と関連をもつ。「学級活動(2)アウ」は、基本的生活習慣や健康で安全な生活態度を形成するための指導として、怪我をした場合の対処方法をあつかうことが考えられ、健康領域内容(2)(3)(4)(8)(9)(10)と関連をもつ。

5. A 幼稚園 B 教諭へのインタビュー調査

(1) 結果

健康領域の10の内容項目について、A 幼稚園のB 教諭へインタビューした結果、表1のようになった。以下、どのような指導を心掛けているか（指導方法の重点）を①、指導上の課題を②、小学校に向けてどのように接続を図ればよいかを③で、結果を表記する。

内容(1)については、次のような結果となった。①幼稚園の生活全体で、先生や友達と楽しく過ごせるようにする。また、母子分離不安について、登園時には、園の生活や友達に意識がむくような声掛けをする。②友達同士でのいざこざが増えるため、自

表 1. 幼小接続についてのインタビュー結果

幼稚園教育要領 健康領域内容	①どのような指導を心掛けているか	②指導上の課題	③小学校に向けてどのように接続を図ればよいか
(1)先生や友達と触れ合い、安定感をもって行動する。	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園の生活全体で、先生や友達と楽しく過ごせるように心掛けている。 母子分離不安について、登園時には、園の生活や友達に意識がむくような声掛けをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 先生と楽しく過ごす上での指導上の課題はない。 友達との関りが増える分、いざこざが増えてくる。自分の言葉で言える子、言えない子がいる。 初めて親から離れて生活するため親子ともども不安があることを理解しつつ、登園するような声掛けを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼小連絡を通して接続を図る必要がある。 幼小連絡会などを通して、子どもや保護者の様子を伝える。
(2)いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの興味関心や発言に寄り添って、関連付けて声掛けを行う。 遊びを知らないことがあるので、遊びの紹介をするようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 視野を広げるようにするための声掛けの仕方。 教師側が、子どもたちの様子をどれだけ見ることができているかが課題である。年間を通して何をしているかをみなといけないう、見取ることができない。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園での動き方を紹介し、小学校低学年での運動遊びにつなげることができればよい。（幼小連携連絡会等） 園として、固定遊具や鉄棒などは個人差があるため、なかなかできない現状を知っておいてほしい。（幼小連携連絡会等）
(3)進んで戸外で遊ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> みんなで外で一緒に遊ぶ日を設ける。その祭はしたなくともみんなです。その場と一緒に行くように声掛けをする。すべて自由でなく制限をかけていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 外に行かない子に対して、どのようにして、進んで戸外遊びのよさを感じさせるか。 何割かは、正直季節やその日の気持ちなどによって左右されるので難しい。しかし、トータルで考えると、外に出て遊んでいる。 課題としては、自由保育のため自分の都合でやめていくとする。 	<ul style="list-style-type: none"> みんなで遊ぶことに大きな課題は感じていないが、集団が好きでない子もいる。個別の連携は必要。
(4)様々な活動に親しみ進んで取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 自由保育のため、困っていたりできていない子に興味をひかせるような声掛けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 何割かという難しい面がある。子どもによって違う。朝の登園から意識している園児もいるが、流動的な園児もいる。 進んで取り組むための課題として、「一緒にやりたいけど入れない」「作りたいけど、作り方が分からない」という園児がいる。その都度、具体的に支援するようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題がみられる子について、自由保育のためにやり方が分からないなどの課題がみられるが、やることある程度決まっている小学校の方がやりやすいのではない。
(5)先生や友達と食べ物を一緒に楽しむ。	<ul style="list-style-type: none"> 焼き芋、おにぎり、米作り、鏡開きなど行事の事前事後に、絵本の読み聞かせなどを行い興味をもたせるようにしている。 給食は、時間内に食べ終わるようにタイマーを使ったり声掛けをしりしている。 週に1回のお弁当の日を設定している。食に興味をもつように、園庭にあるいろいろな木の実の遊びの中で取ってもよいことにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> どうしても時間内に食べ終わらない子への指導をどうしていくか。 箸の持ち方、姿勢、時間など。 3割くらいの園児は時間内に食べられないことがある。時間や園児の様子を見ながら終了時刻を変えることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 「その子にとっては食べられるようになった」「幼稚園からしたら食べている」という状況に対して、小学校では「これだけしか食べない」という見方をされることがある。他の子との比較ではなく、その子にとってどうかを見てほしい。
(6)健康な生活のリズムを身につける。	<ul style="list-style-type: none"> 朝の時間に一日の流れ（遊び・給食など）を知らせるようにしている。絵カードなどで示している。 時間に関しては数字で示す。「長い針が4になったら片付けね」など。片付け時間を活動前に必ず伝え、見通しがもてるようにしている。 年長では、自分で判断できるようになってくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人差があるが、時間について「片付けだよ」など、子どもが友達に伝えてくれるため、大きな課題はない。 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校はチャイムで動くため、リズムがつかみやすいのではない。
(7)身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分でする。	<ul style="list-style-type: none"> 年長で手伝うことはほとんどない。 トイレでは自分でおしりをふけるようにする。 食事の時のエプロン（ボタンなど）について、自分で着る・自分でたたむようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 年長児は一人でできている。 純粋に手を洗うことを忘れたり、エプロンをたたむことを忘れたりすることもある。 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校はトイレが和式となるため、これまでの生活様式にないトイレ様式となる。学校の問題なのだが。
(8)幼稚園における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動する。	<ul style="list-style-type: none"> 自由保育の前に片付けの場所の確認や声掛けをする。 準備するものは絵カードなどで分かりやすく示している。 自分で自分の棚に片付けたり、引き出しにクレヨンやハサミを片付けたりするように声掛け確認をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自由保育（制作遊びなど）で好きな所で遊ぶため、片付けは課題である。 片づけずに他の所に行き、次の遊びを始める子もいる。そのため、誰が何をしていたか全体的に見る必要がある。職員で連携を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の持ち物の片付け方や管理の仕方を具体的に継続的に指導してほしい。小学校でも片付けや自分のものの管理については連携が必要。
(9)自分の健康に関心を持ち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う。	<ul style="list-style-type: none"> 各種健康診断の時は成長が感じられるように声掛けをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 手洗いなど特に、慣れてくると適当にする子も出てくるため、チェック（においチェックなど）をするようにしている。忘れることもあるので声掛けをしている。 	
(10)危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する。	<ul style="list-style-type: none"> 道具で遊ぶ前に遊び方の確認をする。危険な所は知らせるようにする。何かあったら、その都度、指導する。 年に数回の避難訓練では、具体的に指導する。その都度指導する。 けがをしたときは、自分で伝えるように声掛け。難しい場合は、友達に言ってもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> 「さようなら」後に、一目散に飛び出していくことが課題。衝動性によって安全に行動できない部分。 自分で伝えるということが課題。特にけがの状況について。 	<ul style="list-style-type: none"> 衝動的な面があるので、廊下は歩くなどの意味も含めて指導してほしい。 幼稚園と小学校とで、子どもの遊び方への職員意識の差があるため、幼小連絡会で園児の遊ぶ動画を見てもらい、実際の遊ぶ様子を知ってもらった。 自分のけがなどは自分で伝え、自分で伝えられない場合は友達に伝えてもらうなどの具体的な方法を教えてほしい。 自分の言葉で伝えることが課題の子がいるため、幼小連絡会で引継ぎが必要。

分の言葉で相手に伝えること。③幼小連絡会で園児や保護者の様子を伝達する。

内容(2)については、①園児の興味関心や発言に寄り添って、関連づけて声掛けを行ったり、知らない遊びについて紹介したりする。②小学校低学年で行う運動遊びにつながるような声掛けや一人ひとりがどのような動きができていのかを見取ること。③幼稚園で動き方を紹介し、小学校低学年での運動遊びにつなげる。

内容(3)については、①外で全員で遊ぶ日を設けるように指導する。②外に行かない園児に外遊びのよさを感じさせる。③外遊びだけではなく、集団を好まない園児がいるため個別に連携させる。

内容(4)については、①困っていたりできていない子に興味をひかせるような声掛けをする。②進んで取り組むための課題として、「一緒にやりたいけど入れない」「作りたいけど、作り方が分からない」という園児がいること。③小学校ではある程度活動内容が方向づけられているため、進んで活動に取り組めるのではないかな。

内容(5)については、①焼き芋、米作り、鏡開きなど行事の事前事後に、絵本の読み聞かせなど行い、興味をもたせるようにする。また、食への興味・関心を高めたり、食事をする楽しみをつくったりすることなどをねらいに、週に1回お弁当の日を設定している。給食では時間内に食べ終わる様にタイマーを使ったり声掛けをしたりする。②時間内に食べ終わらない園児への指導。③時間内に食べ終わらなくても、食べ終わっている児童との比較ではなく、その児童にとって前より食べることができたかという視点で指導する。

内容(6)については、①朝、一日の流れを絵カードなどで知らせる。また、時間については数字で示す。②個人差はあるが、友達同士で注意し合えるので大きな課題はない。③小学校はチャイムで動くためリズムが把握しやすいのではないかな。

内容(7)については、①トイレでは自分でおしりをふけるようにする。また、食事の時のエプロンについて、自分で着る・たたむようにする。②純粋に手を洗うことを忘れてたり、エプロンをたたむことを忘れてたりする。③基本的な習慣は獲得できるけれど、幼小でトイレの様式に違いがあり、適応できない場合がある。

内容(8)については、①自由保育の前に片づけの

場所の確認や声掛けをする。また、準備するものは絵カードなどで分かりやすく示す。②片付けずに次の場所に行き遊び始める園児がいる。③幼稚園の段階では十分に習慣が形成されないことがあり、自分の持ち物の片づけ方について継続的に指導すること。

内容(9)については、①各種健康診断の時は成長が感じられるように声掛けする。②手洗いなどを適当にしたり、忘れてたりすることがある。③はあげられなかった。

内容(10)については、①遊具で遊ぶ前に遊び方の指導や危険な所は知らせるようにし、何かあったら、その都度、指導する。また、年に数回の避難訓練では、具体的に指導されている。②衝動性によって安全に行動できない。③危険な場、危険な遊び方がバラバラだと、衝動的に行動した時に、一貫した指導がされない（注意されない）ことになるため、共通理解をする必要がある。

6. 考察

◆「ア 健康な生活」

中学年の保健領域「ア 健康な生活」は、基本的な生活習慣を身につけることから、健康領域のすべての項目と関連をもつ。健康領域で高い関連性をもつのは、内容(5)(6)(7)(8)(9)であり、(7)と(9)は重複して関連がみられた。保健領域で高い関連性をもつのは、「特別活動：学校行事(3)(4)」、「特別活動：学級活動(2) アウエ」、「道徳 A 節度、節制」となった。

したがって、保健領域「ア 健康な生活」全体に共通するもので、接続の中心となる指導は、健康への関心を高めることや、基本的な生活習慣や生活態度を形成することと考えられる。特に、その過程で、「健康」という概念がもつイメージを豊かにすることや、「健康」が多様な要因をもつこと、そして、幼児期から継続した基本的な生活習慣や生活態度を指導することが必要となる。

低・中学年での具体的な指導としては、「特別活動：学級活動(2) アウエ」において、「身のまわりの整理や挨拶などの基本的な生活習慣を身に付け、節度ある生活すること」を目指していく。また、基本的な生活習慣に関する活動の振り返りを大切にして、どうすれば改善できるかを繰り返し考えることで日常化を図っていくことが大切となる。具体的には、係活動や話し合い活動において、持ち物の整理整頓や

衣服の着脱、挨拶、言葉遣いなどについて具体的に振り返り、改善の必要性を感じさせることが大切となる。また、その際、生活環境を整えることが健康につながることを指導することがもとめられる。

一方、インタビューにおいては、A 幼稚園では健康な生活のリズムを身につけるために、一日の流れや片付けの時間などについて絵カードや数字で指導していることが確認された。また、集団を好まない園児がいるため個別の連携の必要性があることが確認された。

そのため、小学校において低学年などでも一日の流れなどを視覚的に捉えるようにするなど、生活リズムを形成するための支援が必要となる。また、集団を好まない児童への個別の対応も必要で、教師が積極的に遊びに誘ったり集団で遊ぶことのよさに気付かせたりしていくことがもとめられる。幼稚園段階においては、身の回りを清潔にすることや自分たちで生活の場を整えることが、健康につながっていく。

◆「ア 体の発育・発達」

中学年の保健領域「ア 体の発育・発達」は、心身の発育・発達をあつかうことから、身体運動に関係するものや自己の成長に関係するものがあげられる。また、体を成長させるための基本的な生活習慣をあつかうことから、健康領域のすべての項目と関連をもつ。健康領域で高い関連性をもつのは、内容(5)(6)(9)であった。「ア 体の発育・発達 (イ)」は、大人へ成長するときの体の変化をあつかっており、高い関連性がみられなかった。また、保健領域で高い関連性をもつものは、「生活科 (9)」、「特別活動：学校行事 (3)」、「道徳 A 個性の伸長」であった。「生活科 (9)」や「特別活動：学校行事 (3)」は重複がみられた。

したがって、「ア 体の発育・発達」全体に共通するもので、接続の中心となる指導は、自己の成長をふりかえり、成長を実感させることだと考えられる。特に、健康診断を活用するだけでなく、様々な活動の中で身体的な成長や個人差についても理解させることが必要となる。

低・中学年で具体的な指導としては、「生活科 (9)」において、「体が大きくなるなどして心も体も成長したこと、技能が習熟し様々なことができるようになったこと、自分の役目が増え役目を果たすこ

とができるようになったことなどに気付く」ことができるようにするために、具体的な事象を基に成長を実感できるようにすることが大切となる。そのために、自分自身の生活や成長を振り返る活動の中で、それまでの生活や出来事を思い浮かべ、過去の自分と現在の自分とを比較することで、自分自身の生活や成長を見つめ直すようにする。「道徳 A 個性の伸長」では、低学年では「自分の特徴に気付くこと」を目標に児童の長所を積極的に認めるようにする。そして、中学年では、「自分の特徴に気付く、長所を伸ばす」ことを目標に友達など他者との交流の中で互いを認め合い、自己を高める場を設定したりして、長所を伸ばそうとする意欲を引き出していく。

また、インタビューにおいては、各種健康診断を実施するときは自分の成長を感じられるように声掛けをしていることが確認された。しかし、指導上の課題としては、時間内に食べ終わらない園児への指導があげられ、小学校との接続課題として、時間内に食べ終わらなくても、食べ終わっている児童との比較ではなく、その児童にとって前より食べることができたかという視点で指導することの必要性があげられた。

小学校段階においても、「特別活動：学校行事」における各種健康診断を実施するときは、自分の心身の成長や健康について考えられるような指導をしていく必要がある。また、給食に関してはその児童の食べ切る量を把握し、時間内に食べ切れる適量を配膳していくことがもとめられる。学級活動や生活科の中で食への興味を高めながら、一人ひとりの食べ切れる量に着目し、小さな成長を賞賛するような指導を大切にしていける必要がある。

◆「ア けがの防止」

高学年の保健領域「ア けがの防止」は、交通安全や身の回りの怪我の予防をあつかうことから、健康領域で高い関連性をもつものは、内容(10)となった。保健領域で高い関連性をもつものは、「生活科 (1)」、「特別活動：学校行事 (3)(4)」、「特別活動：学級活動 (1) イ」、「道徳 A 節度、節制」があげられた。「道徳 A 節度、節制」以外の活動で重複がみられた。

したがって、保健領域「ア けがの防止」全体に共通するもので、接続の中心となる指導は、交通安全についての指導や、怪我を防止するための指導、そして、怪我をした場合の対処方法を繰り返し指導

することがあげられる。特に、交通安全の指導だけではなく、運動をふくむ多様な遊びの中で、安全に活動することの大切さや、安全を確保する意識を理解させるとともに、ルールを守ったり、安全な方法を考えさせたりすることが必要となる。また、怪我をした場合に、周囲の大人や友達に報告し、処置してもらうことの大切さやその必要性について理解させることが大切となる。

低・中学年での具体的な指導としては、「特別活動：学級活動(2)ウ心身ともに健康で安全な生活態度の形成」において、事件や事故、災害などから身を守り安全に行動することについて具体的に指導していくことが大切となる。また、「特別活動：学校行事(3)」において、避難訓練や交通安全、防犯等に関する行事を行う際は、具体的な場面を想定するなど適切に行うことがもとめられる。

また、インタビューにおいて、A 幼稚園では避難訓練では具体的に指導したり、遊具で遊ぶ前に遊具の安全な遊び方について確認をしたりしていることが確認された。しかし、けがをした時に自分で伝えるということが課題であることが明らかになった。

この課題について、小学校においては、「特別活動：学級活動」をはじめ各教科等の学習の中で、自分の考えを相手に伝えるという場面を設定し、心理的安全性が担保された学級づくりをしていくことがもとめられる。このような安心して過ごせる環境をつくっていくことで、けがをした際に自分で相手に伝えることができるようになっていくと考えられる。そのため、「特別活動：学校行事(3)」と関連させるとともに、「特別活動：学級活動」において、けがをした際にどのように相手に伝えればよいかを具体的な場面を想定し、伝える練習をしていくことも大切となる。

7. 結論

本研究は、幼児期健康領域と小学校体育科保健領域の接続の仕方とその課題について、カリキュラム編成の観点から解明することを目的とした。健康教育における幼小接続は、体育科保健領域の学習が位置づけられていない「接続不十分の期間」が存在するため、その期間は、学校教育活動全体で実施される健康教育を考慮しなければならない。そこでは様々な活動があるため、図1～8のようにカリキュラムマップを作成した。結果、作成されたカリキュ

ラムマップでは、健康領域と保健領域の接続のあり方を明らかにすることができた。また、関連性が高く接続の中心となる健康領域内容や小学校教育活動を明らかにした。これにより、健康領域と保健領域の接続を考える基本的な枠組みが確認できるようになったと考える。さらに、本研究では、インタビュー調査によって A 幼稚園の事例から、健康領域に関連する幼小接続のための実践的な課題を検討した。結果、各領域において幼児期に想定される課題をふまえて、保健領域でどのような指導の工夫が必要となるのかを考察することができた。

しかし、本研究は、幼稚園教育要領と学習指導要領を中心とする接続のあり方を考察したものであり、具体的実践的なつながり方については明らかになっていない。また、小学校低学年を担当する教師へのインタビューをするなど、小学校側の実態から分析されていない。今後は、インタビュー調査や実践的な研究を遂行し、カリキュラムマップを精緻化させていくとともに、具体的な接続のあり方を明らかにしていくことが課題となる。

注

- 1) 以下、各教育活動における幼稚園教育要領または学習指導要領の内容的根拠については、最初に引用するが、それ以後、反復する場合については、引用を省略する。

謝辞

本研究の実施にあたり、資料提供およびインタビュー調査にご協力いただいた A 幼稚園と B 幼稚園教諭の方に心から感謝します。

文献

- ・日本教育保健学会（2016）教師のための教育保健学．東山書房．
- ・野井真吾（2021）子どもの“からだと心”クライシス．かもがわ出版．
- ・鈴木瑛貴・遠藤隆志・窪谷珠江・馬場彩果・植草一世（2022）コロナ禍が幼児の日常生活ならびに健康に与える影響—2021年2－3月の保護者へのアンケート調査より—．植草学園短期大学紀要、(23)：87-95．
- ・文部科学省（2017a）幼稚園教育要領．フレーベル館．

- ・ 文部科学省（2017b）小学校学習指導要領.
(https://www.mext.go.jp/content/20230120-mxt_kyoiku02-100002604_01.pdf、2023年10月20日最終アクセス)
- ・ 文部科学省（2017c）小学校学習指導要領解説体育 編. (https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017_010.pdf、2023年10月20日最終アクセス)
- ・ 文部科学省（2017d）小学校学習指導要領解説 特別活動 編. (https://www.mext.go.jp/content/20221213-mxt_kyoiku02-100002607_014.pdf、2023年11月21日最終アクセス)
- ・ 文部科学省（2017e）小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳 編. (https://www.mext.go.jp/content/20230313-mxt_kyoiku02-100002607_012.pdf、2023年11月21日最終アクセス)
- ・ 文部科学省（2017f）小学校学習指導要領解説生活科 編. (https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017_006.pdf、2023年11月21日最終アクセス)
- ・ 文部科学省（2018）幼稚園教育要領解説. (https://www.mext.go.jp/content/1384661_3_3.pdf、2023年10月20日最終アクセス)
- ・ 文部科学省（2019）小学校指導参考資料 改訂「生きる力」を育む小学校保健教育の手引. (https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/__icsFiles/afieldfile、2023年10月20日最終アクセス)
- ・ 横田咲樹・三村由香里・馬場訓子・津島愛子・高橋敏之（2021）岡山大学教師教育開発センター紀要、(11)：263-267.
- ・ 松本大輔（2018）日本の学校教育における健康教育の現状と展望. 西九州大学子ども学部紀要、(9)：27-36.

受付年月日（2023/10/20）

受理年月日（2023/12/22）